

研究会  
たより

ちょうど、日本が決勝トーナメントに進むことが決まったところである。世の中大騒ぎである。日本にこんなにもサッカーファンがいたのかと思う。野球はどうなってしまったんだろうか。この文章が日の目を見る頃には、どのような決着が着いているのだろうか。校正のときには、もう、決着が着いちゃっているかもしれないが、この部分はそのままにしておこうと思う。

ワールドカップといえば、パイロム社やカメルーンのスチャラカぶりが話題になっている。真面目な日本人から見れば許されないようなことかもしれないが、世界中から来ているサポーター連中を見れば、どうってことないと思ってしまう。サッカーなんていうものは本当に大衆的なスポーツなのであって、世界の大衆的なスチャラカからいえば、切符がどこかに行ってしまう観客席にポッカリ穴が空いていようが、別にめくじらを立てて騒ぐようなことでもないような気がする。

たとえば、海外旅行をすればオーバーブッキングで飛行機に乗れないことなど、ざらにあることだし、スチャラカの世界標準はかなり広いわけである。それが、ワールドカップのような、より大衆的なレベルになれば、スチャラカはさらに増幅される。

要するに、日本も、世界標準的スチャラカを受け入れるように、変わっていかねばならないのである。まあ、若い人にはスチャラカな奴が単調増加で増えているから、日本社会全体がスチャラカになっていくことには間違いがないのであるが。

しかし、それにしても、日本の役所的な、融通の利かない、世界のスチャラカをまったく無視した、官僚主義的システムには、腹が立つことばかりである。世界から人を受け入れようという意図がまったく感じられないわけである。

たとえば、身近なところでは、自分の研究費で外国の研究者を招聘しようと思うと、恐るべき多くの書類を用意しなければならない。日程表や航空券の領収書だけでなく、航空券クーポンの最後のページや、最近では、半券も提出しろと言われる。ちゃんと航空券の見積書と領収書があるのに、なぜ半券ま

で提出しなければならないのだろうか。そう言われれば、払い戻しをして着服するというのも可能ではあるが。ということで、半券というのは stub とか counterfoil とかいうらしい。こんなことまで憶えてしまった。

しかも、外国では領収書などに関する考え方は随分違っている。さらに、最近では、インターネットで簡単に航空券が買えるから、そういう場合に、官僚主義的な書類はまったく揃わなくなってしまう。それでは困るとか言うのと、何で俺がここにいることが証明にならないのか、というようなスチャラカを主張されてしまったりする。事務では、書類が揃わないとお金は出せません、と言われる。しかし、そのお金は、もともとは、自分で苦しい思いをして集めてきたものなのに・・・

だいたい、日本の大学や研究機関の事務は、研究者の研究をサポートする気があるんだろうか、と思ってしまうのである。1つには、研究者が頑張っただけで研究費を取ってきても、事務方は給料が増えず単に仕事が増えるだけという問題がある。これは少しずつ改善されていくようだが、もっとズドンとボーナスでも出れば、気持ち良く仕事

をしてくれるのと思う。また、研究者にも悪い奴がいて、悪行を重ねてきたので、こんなにも融通の利かないシステムになってしまったということもあるかもしれない。しかし、そればかりではなくて、やはり、日本のシステムを作ってきた人々が、世界のスチャラカを知らなかったからだろう。

短期間の招聘ならばまだしも、外国人を雇おうと思ったりすると、もっと悲惨である。雇ってから大変である。書きたいことは山ほどあるが、虚しいのでもう止めよう。願わくば、大学や研究機関の事務の皆様（特に上の方にいる方々）は、中津江村に行き、世界のスチャラカを学んで欲しいと思う。

ところで、私が戯文書きの師匠として密かに勝手に尊敬していたナンシー関氏がちょうどワールドカップの最中に亡くなられた。もう、消しゴム版面も超辛口文章も見られなくなるかと思うと、とても悲しい。合掌。(はぎゃ)

(平成 14 年 6 月 17 日 受付)

第13回

## ワールドカップと官僚主義

萩谷昌己(東京大学/調査研究運営委員会委員長)

